



# 月刊 千葉労働

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)  
電話 (鉄電) 千葉 2935・2936 番  
(公) 043(222)7207 番

95.11.28 No. 4301

- 勝浦運転区廃止攻撃粉碎!
- 強制配転者の原職復帰!

# 断個ストライキ突入しよう

## 11/28~12/1ストへ全組合員の総決起を

### JR当局、JR総連・革マル 結託体制をぶち破れ!

本日二十八日正午より動労千葉は、JR東日本の全職場・全職種で七十二時間のストライキに突入する。

①勝浦運転区廃止攻撃粉碎! ②強制配転者の現職復帰! ③外房線一三〇キロ運転反対、運転保安確立! ④一切の不当労働行為根絶!、この四つの課題を掲げ全組合員の総決起でストライキを闘いぬこう。

同時に今日は、国鉄分割・民営化阻止を掲げて闘いとられた八五年十一・二八第一波ストからちょうど十年にあたる。

十年前、全組合員がまなじりを決してストライキにたちあがった。「赤字国鉄、国鉄労働者国賊論」の重包围の中で、二十万人首切と動労千葉根絶の国をあげた大攻撃の中で動労千葉のみが反撃にたちあがった、その記念すべき日である。

### 八五年十一・二八第一波ストから十年

### ゆらぎはじめたJR体制

### いまこそ反撃・反転攻勢にたとう

その後分割・民営化のゆくえはどうなったのか。「十年目の総括評価」を前にして、清算事業団の債務は減るところか二十六兆九千億円という途方も無い金額になって重くのしかかっている。北海道・四国・九州の三島会社は赤字による運賃値上げを申請し、貨物会社は二年連続して赤字となった。「土地と株」の売却というパブル的手法は完全に破産し、分割・民営化の見直し、再検討が不可避となった。

点に手をつけなければもちこたえることができなくなっている敵の弱さの表れである。われわれが、団結をうちかため、組織を強化してたちむかうなら、なんら臆することはないのである。

JR体制は、ついに揺らぎはじめたのであり、われわれが反撃・反転攻勢に立つ番である。今日からのストライキはその烽火となるであろう。

なってきた。

JR東日本においても、当局とJR総連・革マルの結託体制をくひ破るべく闘

いぬいてきた。勝浦運転区廃止攻撃も敵のつよさの表れではなく、動労千葉の拠

大失業時代を

うちやぶる闘いを

またこのストライキはJR体制を直撃するだけでなく、大失業時代のなかで苦

闘する多くの労働者の注目と期待を集めた。つたたかわれる。いまほど労働組合が必要な時代はない、にもかかわらず労働者の利益のためにたたかう労働組合がどれだけあるのか。連合のもとで労働組合の階級的団結がうちこわされている。「よみがえれ労働組合」「とりもどそう団結」この十一・五労働者集会のスローガンを体現するものでもある。

本日午後六時千葉市民会館小ホールで開催される総決起集会に結集し、この十年間の激闘の勝利の自信、勝利の確信もかたく、ストライキに全力でたちあがろう。



▲1985年11月28日夜、千葉運転区構内

新たな10万人合理化粉碎! 労働運動の新たな潮流めざし全国へはばたこう!